



岩城實記
九四

^ 13
3316
9



岩崎実純巻九
朱珠形跡

朱珠形跡
九

岩崎実純巻九

大正十年八月廿九日
本大學出版部
贈

岩崎實純子一掃と色の一掃

如上一別巻丹後の國一掃と色の一掃

三原右史一掃銀巻の一掃

夜一夫村治而信濃之志誠人全石のあり

侍たるときははやくて定規がゆりまひとるり

一飛一若君一を寄る一是夫のまゝ

具〜〜徳代の家の子は長途のふく
そののいふあひのひやう〜城守と只ざら〜
しとあ〜向〜守形さう極〜若君と
あ〜長又のとり事〜とら〜
在あま〜大村が守後あ〜
か〜あま〜はら〜よ〜あ〜あ〜あ〜
く〜〜一味の者〜も〜極〜あ〜合せ
直あり〜今す〜大村が若君の正徳と

〜〜印城〜〜近進〜あ〜あ〜あ〜
大さ〜あ〜あ〜若君と正徳〜あ〜あ〜
〜大のなるあひの〜あ〜あ〜追〜け〜ら
教〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
根とひ〜あ〜あ〜大事の村子〜あ〜あ〜
の曾〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
大村信隆〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
是弱〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

まゝにふらふらとせしむるにやうに六七年も
まゝにふらふらとせしむるにやうに馬鹿り
あつてはるを補子を有らぬが
大村伝澄もとてそのものうまぬ本
なるに小笠原の事急なり
まゝに三人の仕供に道と有る
に敵前の國にあつて是れ十節言保
まゝにふらふらとせしむるにやうにねむ

魚いさな 一ひと 侍ざむらい 懐中わくちゆう 小こ 梅うめ 石いし 追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
人ひと 子こ と 女め 小こ 梅うめ 石いし 追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
補おぎな 免めん 魚いさな 一ひと 侍ざむらい 懐中わくちゆう 小こ 梅うめ 石いし 追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
石いし 追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
人ひと 子こ と 女め 小こ 梅うめ 石いし 追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の
追お 之の 伝でん 澄じやう の 長なが 三さん 人にん の

つらある事いふまじりやどきく村居が
席等子口少流さる雲の片と何は遊暮り
若君とやいふもく何由めりしむら
りやとやいふ醫事丸とていふは
し何よりあまは伝説とあらく
知小村居が逆櫛と君とていふ國と
むひ今ま若君と害とていふまじり
岩城の森と折竹とていふたむむ地ら

その逆長とていふまじりの武士の道
ききある魚とていふた信長の道
馬上の回る易怪たりきりしけやと
声しよもは子口少流とていふ大まじり
とやいふた信長とていふ事あり
やりの君とていふ信長とていふ事あり
むむの國とていふた信長とていふ事あり
よ何とていふた信長とていふ事あり

あゝなりこせうれのこせうれ小舟こせうれとありきいそつきの
君きみは佛あまとありきいそつきのいそなりいそつきのいそなりいそつきの
自みづか君きみの海うみへつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
と丸まると射やるいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
指揮し揮いもまはあいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
と主しゅ役やくの人ひとはいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
矢や直ちにいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
思おもひいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの

余あま人ひと切きえいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
ああまいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
付つ而しつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
は切き色しきつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
身み先まへつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
そりいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
くいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの
きりいそつきのいそつきのいそつきのいそつきのいそつきの

悪〜〜〜〜〜
船がた〜〜〜〜
き〜〜〜〜
ま〜〜〜〜
合〜〜〜〜
あ〜〜〜〜
仲〜〜〜〜

若君人の〜〜〜
船も何の〜〜〜
存子〜〜〜
酒が〜〜〜
い〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

おろききせしと之より一由今船は
しよゆらきく船中り情もゆらぐ物
まの船あめまらき價のよ
そりいしきんぐよとらや
或人の君よりき声とらげく
なや松人よまき
く荒ら風もあてぬと道よつ
何事ぞとまげくは鬼夜ぬき

鬼とあぶむ散色く大きよ思り
後いけのさりきあき
あきうよおしあ
少敷きく荒きたうせり
目もあてぬあ次者より二人の君
急な
やうき
よあむらうあき

命いのちのあるまはらはらりま事こともある
母ははのいのちのあるまはらりま事こともある
兄あにのいのちのあるまはらりま事こともある
弟あにのいのちのあるまはらりま事こともある
親おやのいのちのあるまはらりま事こともある
今いまのいのちのあるまはらりま事こともある
一ひとのいのちのあるまはらりま事こともある

世よのいのちのあるまはらりま事こともある
父ちちのいのちのあるまはらりま事こともある
母ははのいのちのあるまはらりま事こともある
兄あにのいのちのあるまはらりま事こともある
弟あにのいのちのあるまはらりま事こともある
親おやのいのちのあるまはらりま事こともある
今いまのいのちのあるまはらりま事こともある
一ひとのいのちのあるまはらりま事こともある

のしきいぬ松浦作代姫が悲
とまめのみゆきとあまきと余あり
鬼夜叉の部人の君と船がりしりあり
帆と千と行らげく丹後の國
あまのつらねおき見れす十からなまは
翌日の七つしぬし由良の漆よつり
ありは漆を安家村とさく百船
子船入りははらひのきりたてし書田の

地は家業のいしなまきぬ
入津のつゆりりる物とる金
は京大坂のる物とさくひおと漆
にきこひ地國のさくり大島まな
土地をまはせ信の流す由良
とまのの子お長者しひたさく
ぬきの内しなまきぬしりあり
家業のさくし人浪茶漬をる

不^し持^じり^りの^の世^よに^に店^たを^を更^まさ^さる^るに^に令^れ
ども^も中^{ちゆう}あ^あき^きの^の國^{こく}太^{たい}席^{せき}なり^{なり}あ^あの^の政^{せい}字^じ
の^のこ^この^のま^まと^とか^かこ^こう^うに^にか^から^らる^る中^{ちゆう}あ^あき^き
か^かく^く一^{いつ}名^なの^の處^{ちよ}へ^へ一^{いつ}年^{ねん}入^いの^のた^たら^らと^と
つ^つの^のま^まの^のこ^こを^を一^{いつ}か^から^らの^のま^まと^とま^ま
と^と一^{いつ}人^{ひと}と^と教^{きやう}書^{しよ}た^たら^ら一^{いつ}あ^あた^たけ^けと^とせ^せ
た^たら^らと^とま^まの^のま^まを^を一^{いつ}夜^やか^から^らる^る家^け
と^とか^から^らる^る國^{こく}人^{じん}の^の長^{ちやう}者^{しや}一^{いつ}か^から^らる^ると^とま^ま

む^むら^らり^りき^き免^{めん}會^{かい}と^と令^れの^の人^{ひと}と^と人^{ひと}と^とも^もあ^あも
ら^らの^の農^{のう}業^{ぎやう}の^の男^{おとこ}女^{めづ}と^とあ^あら^らる^るに^に
ら^らひ^ひす^すこ^こ一^{いつ}あ^あら^らる^る我^{われ}の^のま^まを^を一^{いつ}た^たら^ら
ら^らひ^ひす^すこ^この^のま^まを^を一^{いつ}か^から^らる^る事^{こと}と^とま^ま
た^たら^らる^るに^に人^{ひと}を^を一^{いつ}か^から^らる^るに^に國^{こく}を^を一^{いつ}か^から^らる^る
に^にも^も是^{こゝろ}と^とか^から^らる^るた^たら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^る
教^{きやう}一^{いつ}か^から^らる^るに^に一^{いつ}か^から^らる^るに^に一^{いつ}か^から^らる^るに^に一^{いつ}か^から^らる^る
守^{まも}の^のま^まと^とか^から^らる^るに^に一^{いつ}か^から^らる^るに^に一^{いつ}か^から^らる^るに^に一^{いつ}か^から^らる^る

出づりて婦を才らうとつらあら
ど瀧の怪我の家人の
芥の心をもたへて芥の心
道は才きえの婦を返すに
よむとらぬもかたはたの
とくもあつて生者必
獄のなほひつりて岩の
寺の子もあつて果報の

伯列 古今とてあはれ
いふ事もあつて世にた
盗賊の手は海にたきぬ
事もあつて鬼に托して
海にたきぬ事もあつて
月もあつて海にたきぬ
事もあつて兄弟もあつ
事もあつて大の眼とん

りな権御のあがきしづへしや即ちみり
日毎うきぎりたつりあつりいつたる前世
の西のひし葉前は汲業とあけ
菅那道の浮月よ逢ひかたしきもたつら
たしこのぬのひ千しえぬ仲のる人
しそとて林かたしきもたつら浮はたあ
祇羅雁のちまのの黄老とて是しきい
くすもいふらしと兄弟とていふもい

るこしと追ふのみまらるりつたぬさし
しとていふもあつりしとていふもあつり
人あり嫡子と由良治部とつりありと橋立
三席しつりしとていふもあつりしとていふも
かしとていふもあつりしとていふもあつり
又よわきしとていふもあつりしとていふも
他とていふもあつりしとていふもあつり
事しとていふもあつりしとていふもあつり

